

# 校内研修計画

甲州市立玉宮小学校

## 1 学校課題

本校の子どもたちは明るく素直で、家庭の温かい愛情の中で健やかに成長している子がほとんどである。全校児童が39名の小規模校であるため、学年の枠をこえて仲が良く、休み時間には元気良く校庭で遊び、上級生が下級生の面倒を良く見ている。

しかし、現代社会が抱える、「物質至上主義」「情報過多」「少子化」といった諸課題は、子どもたちの生活様式・意識・態度にも少なからず影響を与えている。本校においても、

児童数が年々減少している。そのため、近所の友だちと誘い合って遊んだり出かけたりということも少なくなり、地域の人々との交流や触れ合いも減少し、社会性の低下が懸念される。

休日に友だちと地域の自然に触れるなどの直接体験をすることが少なくなっている。

自ら課題意識を持ち、考え、判断し、解決していこうとする問題解決力や、進んで自分の言葉で表現しようとする主体的な態度は十分であるとはいえない。

といった学校課題が挙げられる。

本年度は、昨年度までの研究成果を生かし、郷土に根ざした豊かな学びを保障するための地域教材の再構築に取り組むことによって、学校課題の解決に迫る研究を進めていきたいと考える。

## 2 研究主題

人間性豊かに主体的に生きる児童の育成

地域教材の再構築と授業への活用を通して

## 3 主題設定の理由

本校児童は、自然豊かな集落の落ち着いた地域に育ちながら、自然や地域の人々とじっくり触れ合う経験や体験が少なくなっている傾向にある。そこで、学習場面に子どもたちが地域の自然や人々と触れ合う学習活動を取り入れることにより、関心をもっていきいきと取り組み、自分たちの住む地域のよさを見直し、地域を愛し、自分自身を見つめ、豊かな人間性・社会性をもった児童を育成することができると考える。

本校は、地域や人材に恵まれ、これまで特色を生かした地域教材や人材が学校諸活動で活用されてきたが、一部基礎資料の更新・見直しや協力してくださる地域スタッフの高齢化に対する方策等、豊かな学びを保障する上で地域教材や人材の再構築が必要である。

これまで、保護者や地域に協力依頼し発行回数47回を重ねてきた歴史ある地域文集「玉晶」には、「自然あふれるふるさと・温かさといのちあふれるふるさと」への思いが詰まった作品が数多く寄せられた。保護者や地域の子どものたちに対する願いも、本校の教育目標や研究主題・教師集団の願いと一致しているといえる。

## 4 研究の具体的内容と方法

児童の実態の把握

CRTの結果や「Q-U」などを活用して各学級の児童の実態把握をし、学級集団づくり・学習指導・研究に生かす。

理論研究

「地域教材・人材の生かし方」「地域教材・人材を活用した授業づくり」「確かな学力育成につながる授業改善」について関係図書・資料（授業改善プランなど）を用い学習する。

地域教材に関わる講義・研修を設ける。（地域の方に来校依頼し、学校を開き学校に気軽に入ってもらいたい。）

地域教材・人材の整備

新たな地域教材・人材の発掘を含め、地域教材・人材の洗い出しと見直しをする。

（新指導要領にあわせて教科書を読み直してみる）

各学年の教科領域との関連表・人材表・地域教材の活用実践事例集を付加修正しつつ、作成する。実践事例については、教師が日々記録を心がけ蓄積していく。

（このような人・教材があるからこのような授業をするという視点と、授業をする

ためにこのような人・教材が必要であるという双方の視点をもって)  
 地域人材の見直し・整備を行い、ご協力いただける講師を増やす。

研究授業  
 研究授業・・・日々に役立つ授業・確かな学力育成につながる授業を実践する。  
 外部講師にきていただいた授業は全員で参観したい。(時間設定等、  
 教務と相談)

授業研究・・・各自実践事例を積み重ね授業作りの工夫をし、その中で一人一実  
 践を基本とし授業を通して学びあう。

図書館教育の充実  
 地域の・環境・自然・史跡・伝説・産業等に関する図書の選定や、調べ学習に役立つ  
 図書の充実を図る。  
 司書教諭を中心に“ふるさと玉宮コーナー”，図書だよりの“ふるさとクイズ”  
 などを設け、意欲付けを行う。

## 5 年間校内研修計画

研究主任 吉岡 美奈子

月	日	曜日	内 容	担当	T C 要請
4	4 11 18	水 水 水	今年度の研究の 方向性確認 学校課題・研究主題・主題設定の理由・研究仮説・ 内容と方法・組織・計画等の検討、研究組織編成 ”	吉岡 推進委員 吉岡 吉岡	
5	2 23 30	水 水 水	学習会 「学力育成プロジェクト」について  各学年教科領域の関連実践洗い出し・人材系統表・ 新たな人材の確認について、及び作業 講師を招いて学習会 (地域の方)	推進委員  吉岡 吉岡	
6	6 27	水 水	ブロック研究(研究の焦点化 学校では 家庭では) 昨年度のC R T・知能検査等から各学年の実態・課 題把握 6日の内容(と「Q-U」の結果が戻ってきたらあ わせて)をいかし各学級の生活面・学習面の改造計 画	ブロック長  推進委員 吉岡	
7	4 11	水 水	講師を招いて学習会 実際に歩き臨地学習 改造計画を受けた実践事例カードについて	吉岡 吉岡	
8	15	水	教育課程環流報告 系統表確認 各学級の生活面・学習面の改造計画報 告	各参加者	
9	5 12	水 水	実践に向けて 授業実践事例・研究 授業かレポート形式	個人 (2年)	
10	3 10 24 31	水 木 金 水	授業実践に向けて 低学年 高学年 ” 低学年・高学年 授業案 検討(全)(1)学年 授業実践 ・研究会	ブロック長 ブロック長 (1年) (1年)	
11	7 16 21	水 金 水	授業実践事例・研究 授業案 検討(全)(5)学年 授業実践 ・研究会	(3年) (5年) (5年)	
12	5 12	水 水	授業実践事例・研究 授業かレポート形式 授業実践事例・研究	(4年) (6年)	
1	30	水	研究・実践のまとめに向けて(「Q-U」 の結果 を踏まえて) ブロック研究まとめ(成果・課題)	個人 吉岡 ブロック長	
2	20 27	水 水	ブロック研究まとめ報告 研究集録について 研究のまとめ(成果・課題) ～研究集録用原稿作成 研究集録作成作業	ブロック長 吉岡 各担当 全職員	
3	6	水	来年度に向けて	吉岡	

